



大きな手 小さな手

～ 令和2年度 入山こども園（秋号）～

今年度、コロナ禍で保護者会主催の夕涼み会は中止になりましたが、8月下旬から昨年度の夕涼み会で楽しんだ魚釣りや宝釣りを出すと、子ども達は釣り竿やお宝を作り始めました。自分達でお店屋とお客さんになって遊びましたが、乳児さんや調理員も呼んでお店屋さんごっこが楽しめました。



「魚を置くところが海っぽくない」
「動物を折って宝にしよう」
「お客さん呼びたい」

「お魚、釣れたよ」
「はい、この中に入れてください」



5歳児が「祖父母お招き会でお店を開いて、おじいちゃんとおばあちゃんのえがおがみたい」と9月25日に向けて準備を始めました。初めは4歳児に伝えたいことが伝わらずにいましたが、「これで魚を3個作って」と4歳児がわかるような伝え方を考えると、「どうやって作ればいい?」と5歳児に聞き、一緒に準備をしました。



「ガチャガチャは1つです」
「わかりました」
「(小さいのが当たりなんだけど僕のおばあちゃん引いてくれるかな)」
「これにしようかな、ありがとう」

「いらっしゃいませ～」
「どうやって遊ぶんですか?」
「この紐を引っ張ってください」
「わあ、素敵なネックレス。ありがとう」



【由比北小学校1, 2年生が、お店に来てくれました】



「かわいいね、これ誰が作ったの?」
「うん、私っち。はい、時計どうぞ」
「かわいいお宝、たくさんもらってうれしい」

「このお魚の色、とってもきれいだね!大き
くて釣るのが難しくなってる」
「そのお魚、僕が作ったんだよ」
「この竿、磁石にセルテープが付いてて
釣りにくいかも」
「ほかの竿があくまで、まっけてください」

